

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会 須藤 繁

〒198-0052 東京都青梅市長淵2-687
電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘

私どもに先立ってくださる主

西東京教区議長・国分寺教会牧師 願念 望



主の御名を賛美します。「にじのいえ信愛荘」をおたずねして、礼拝を共にさせていたたく度ごとに深く励まされますのは、ここでいつも祈っていただくさうということです。その祈りは、主が私どもに先立って祈りつつ働いてくださる恵みに繋がっています。力づけられます。

想い起こす御言葉があります。「だれがわたしたちを罪に定めることができません。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくださるのです」(ローマ8・34)。主イエスが今もなお祈っていてくださる祈りは、ペトロたちと共に過ごされたときから始まっています。

ペトロは三度も主イエスを知らないと言ってしまった。そのことが起こる前に、主イエスはペトロに「あなたの信仰が無くならないように祈った」と言われたのです。主が祈ってくださった祈りによって、ペトロは弟子としての回復の道が備えられました。主が復活されたことを信じることができず、ガリラヤに帰って漁師をしていた、そんなペトロのところにも主は出向かれて信仰を与えられたのです。

そのような、主の祈りとその祈りを生きたれた働きは、ペトロや当時の弟子たちに始まって、今もなお私どもに恵みによって与えられています。恵みは受け取る理由を見いだせないけれども主が愛をもって与えてくださるものですが、キリスト教会は主の恵みを継承して、祈りつつその恵みを宣べ伝えています。主を宣べ伝えていることもまた、

恵みと信じて感謝します。

私どもに先立ってくださる主の恵みを思う出来事がありました。昨年のクリスマス礼拝に、中国からの留学生が集いました。彼女はやがてイースターに洗礼を受けたのですが、準備会で、中国で教会に通っていたけれども留学前に時機を逸したと。お父さんから何代もさかのぼると家の教会の指導者だったそうです。小さい頃から、お父さんやお母さんからイエス様のことを教えられ、だんだん信仰を与えられていったと聞きました。ある日の礼拝の後「いつか洗礼を受けられるように祈っていますね」と伝えると、その日の夜「洗礼を受けます」とメールが来て驚きましたが、あとから壮大な主の働きを知りました。力づけられました。

私どもに先立ってくださる主がおられることをこれからも信じていきたいと思えます。主と共に祈ってくださる「にじのいえ信愛荘」の祈りがあることは、主の恵みによる励ましです。

クリスマス メッセーじ

クリスマスの喜び

隠退教師 阪口 吉弘

マタイによる福音書2章11節



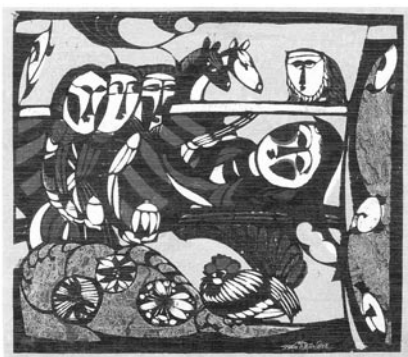
新約聖書の
イエスの誕生
についての箇
所には、「星」

また「光」がしばしば出てきます。それぞれの箇所でどういう意味を持っているのかを考えながら、クリスマスを迎えましょう。

まず、マタイによる福音書を見ましょう。2章には東の方から学者たちが星に導かれて一千キロの旅をしてエルサレムに着き、さらにベツレヘムの村へと導かれ、そこでみどりごイエスに出会い礼拝し、黄金、乳香、没薬をささげて、別の道を通って自分たちの国へ帰って行ったという物語が書かれています。この「星」は東方文明の「導きの星」です。これに対して学者たちを導く星はどこへ彼らを導

くかという、ベツレヘムのみどりごイエスの眠る家畜小屋なのです。片や権力賛美、片や謙虚な地上のイエスをあらかじめ指し示し、そのイエスこそ世界の最高の知恵もひざまずくのだ、と言う主張が込められていたようでありま。

ルカによる福音書を見てみましょう。星は出てきません。主の天使が近づき、主の栄光が羊飼いたちを照らしたのです。イエスの誕生をこの「光」が告げるのです。それに続いてみどりごイエスは、両親に連れられてエルサレムに来て、そこでシメオンという預言者に会います。彼は旧約聖書の歌をもってイエスを「異邦人を照らす啓示の光」



マリアを見舞う三博士
渡辺禎雄版画

とたたえます。シメオンの言葉ではこの啓示の光が、人類の救いであり、栄光であると歌っています。この「光」はイエスがこれから果たそうとする救い、人類に対する解放、自由の福音の働きを意味したと言えるでしょう。

ヨハネによる福音書を見てみましょう。ヨハネは宇宙的スケールに拡大して天と地が造られる前に、光は闇の中で輝いている。闇の暗さを真昼の明るさに変えるこの「光」こそ「言葉」であり、「命」(ヨハネ1・4・5)です。イエスは天地創造に先立って存在した暗闇に輝く光、命の言葉であり、神はその言葉によって世を照らす光を与えられたのです。イエスの誕生によつて私たちはそこに「光」を見、そして、神を知ることができるようになったとヨハネは言っているのです。

ポーランドのこどもたちはクリスマス夜の夜に何をするかという話を伺ったことがあります。それは「誰が一番星を真っ先に見つけるか」を競うのだという

のです。その「星」はポーランドの人々にとって希望の星であり、喜びであり神の語りかけであり、救いのしるしなのです。この星はこどもたちをベツレヘムのイエスに導いてくれる星です。彼らは今年も一番星を探していることでしょう。

東方の空に輝く星が現われ、世界の知性を西へ導き、ベツレヘムの家畜小屋への道を示しました。イエスはそのでお生まれになりました。羊飼いたちは「光」に導かれて飼葉桶のイエスを探しました。人間の貧困と困窮の中へのイエスの誕生、それは神が人間に語りかけた「語り」であり、救いの意志を表した「ふるまい」でした。肉体をとって私たちの間に宿った「神の言葉」「命」、そして「希望の光」それがベツレヘムで誕生したみどりごイエスであったのです。このように諸福音書は「クリスマスの喜び」を語ってく



クリスマス によせて

いつも素直に

松本 明子



クリスマスと聞くと、あの時のショックを思い出す。友人に誘われて進駐軍の宣教師達が開いている伝道集会に行った。

分級の時神学生が、マリアの受胎の話をした。天使がマリアに現われ「あなたは神の霊により男の子を産む。名をイエスとつけなさい」と言われ、マリアは驚き「どうしてそのようなことがありえましょうか。私は男の人を知りません」と否定したが「わたしは主のはしめです。お言葉どおり、この身に成りますように。」(ルカ1・38)と主の言葉を信じ素直に受け入れた。私はこのマリアの素直さに驚いた。

ユダヤの律法では、相手のいない妊娠は死刑に処された。マリアは天使の言葉を否定したが、聖霊によるものだと言われ、自

分を神様にゆだね死を覚悟で御言葉を受け入れた。身に覚えの無いことを命に係わるのに何故？私は承知できないと思った。

その時、私が素直でないことに気がついた。素直になりたいという思いが胸いっぱい広がった。神学生に「今も素直でない私を告白し素直になりたい」と訴えた。彼は「イエス様を信じなさい」と言って私のために一緒に祈ってくれた。その時、今までの重荷が消えたようにすすきりし、喜びで胸がいっぱいになった。

私は過去に二回受洗準備会に参加していた。その時「あなたは一生イエス様を信じていけますか」の問いに躊躇した。人間は一つのことを一生信じていけない、心変わりする。私はイエス様に誓えないと思った。受洗しなかった。

神学生と一緒に祈ってから、私は主を信じた。主と共に生きる喜びを知った。主に愛され、隣人を愛することも示された。

新しい使命も与えられた。
(にじのいえ信愛荘在荘)

クリスマスの頃

事務長 田中麻里子



何故クリスマスは12月25日なのでしょうか。あるいは、何故年末年始は12月の終わりから1月の始めにかけてなのでしょう。

クリスマスのことを思うと10代の頃はともかく、共働きで子どもを育てている頃の、大変忙しくあわただしい日々のことが思い浮かびます。

年末で残業の日々の中、教会では子どものクリスマス、クリスマス礼拝、キャンドル礼拝があり、休日の合間で家族でのクリスマス。加えて子どもが通う学童保育等で使用するツタや松

ぼっくり集め……。26日からは年賀状書きでしょうか。

そんな中ですが、子どもの教会でのクリスマスパーティーや楽器演奏等の発表は、我が子を含めて教会に集う子どもの成長を垣間見る時であつたように思います。

昨年と比べて背も伸び、幼児から少年少女への変化を目の当たりにする・・・という感じでしょうか。

これから後、静かなクリスマスを通ぐす時が来た時は、あのあわただしい日々を懐かしく思うのでしょうか。それとも、その静けさを楽しむのでしょうか。
(神奈川・溝ノ口教会員)

予 告 チャリティコンサート

日時 2020年1月11日(土) 午後2時～4時
会場 青山学院大学 ガウチャー記念礼拝堂
出演者 「アンサンブル14」合唱団
指揮 辻 秀幸氏
オルガン 今井奈緒子氏

新春早々、教会音楽で新しい年の扉が開かれることになりました。主に希望を託し存分にご鑑賞ください。
チケットは只今販売中。
(募金小委員会 西村佳子)

追悼



故 嶺 尚師
2019年10月19日 召天

嶺尚先生を偲んで

牧師 武田 英夫

去る10月19日に84歳で召天された嶺尚先生は、「にじのいえ信愛荘」で長く主日礼拝説教を担当されていましたが、体調を崩されてからそのご奉仕の一端、私にと依頼があり、約2年間、お手伝いできたことは私にとつては感謝の経験となりました。

嶺先生との出会いは1歳年下の私が23歳の時、東京に就職して千歳船橋教会を訪ねて以来です。もう60年ものお付き合いになります。当時の牧師は神の痛みの神学で有名な北森嘉藏先生でした。嶺先生は北森牧師を特に尊敬され、北森牧師も秘蔵っ子のように可愛がっておられました。北森先生のご逝去後の1998年11月開催の千歳船橋教会での「北森先生を偲ぶ会」では嶺先生が「基督者の愛と自由」と題して説教されました。

嶺先生の葬儀で司式をされた

船戸良隆牧師も共に青年会の一員でした。私が定年後に献身する志を与えられたのは、このお二人の影響によること大でした。私の就職1年目の頃、当時の青年会誌に投稿した一文に対して手厳しくも優しく批評をくださった時のことは忘れられません。

嶺先生は温厚で誰に対しても優しく接してくださるのに、ご自分には厳しい方でした。その嶺先生の純粹さは終生変わりませんでした。先生は外見はお元氣そうでしたが、色々な病気に悩まされました。若い日の闘病中の入院時に看護師の澄子様と出会われ、後にご結婚されました。牧師になられたばかりの頃には精神的な悩みを負う婦人たちのための施設に住み込んでの奉仕もされていました。その後1968年から弘前の地で29年間大学・中高の教師を勤められ、定年退職後に関東教区の巡回教師を、更に中国の長沙大学で日本語教師として奥様と共に2年弱の奉仕もされました。このように病身をも顧みずに色々な奉仕に挑戦できたのは神の御支えと御導きによると信じ、御名を賛美いたします。（隠退教師）

主にあるお二人

宮本 恵

「今朝は残念なお知らせがあります」一瞬シーンとなりました。「嶺 尚先生が主の御許へ召されました」「えーっ」「どうして?」「にじのいえ信愛荘」から別の施設に移られて、やっと新しい環境にも慣れ本格的な療養生活が始まっている筈・・・と、殆どの人が思っていたからです。

その時私は先生のお連れ合いの澄子さんのことを思いました。今どんなにか耐え難いお気持ちでおられるでしょうに、それでも神様は先生を召されたのです。

尚先生は学生時代からご病氣勝ちでしたようで、卒業後には当時看護師として働いておられた澄子さんと家庭を持たれ、良き伴侶を得られたのでした。その後永年にわたってミッションスクールでお働きでしたが、その間もお二人は支え合って過ごして来られたのです。

在荘中もよく散歩をされ、時には自転車も連ねて走っておられました。きっとあの頃はお体の調子もよかつたのでしょう。

お二人が入荘後しばらく経った頃、夏期でしたが一カ月余り

の間ドイツを旅行されたことがありました。お出かけ前は殆ど何も話されませんでしたので、帰荘されてから折々に伺っていました。

学生時代からテーマにしていた「宗教改革者マルティン・ルターの福音理解」について、整理、まとめを考えておられるようでした。アンハルト州とヴィッテンベルク市協同の公設「ルター研究所」があり、そのゲストルームは世界中の研究者や学生に開放されていて、自炊しながらルターの事跡を訪ねたり、資料や文献に当たることもできるそうです。ルターの町・ヴィッテンベルクを中心に目当ての町まで公の交通機関を使い、その後は地図を片手に専ら歩くという方法でエルフルトやヴァルトブルクなどを訪ねられたのでしよう。

帰荘後しばらくしてスナップや資料の一部でも掲示されることをお願いしましたが、主にあつてそれをなさいませんでした。

そこが、嶺尚先生なのです。
(にじのいえ信愛荘在荘)

会 茶の お

人と人が集う 何と美しいことか

松木 やす子

食堂の隣には、「神の花園」とも呼びたくなるような美しいお庭があります。三度のお食事に集うとき先生方のお目を癒し、楽しませてくれることでしよう。そのような場で月に一度お茶の会が催されます。

一ヶ月ぶりの再会に早速おしゃべり。皆様そろりと讃美歌、お祈りで神の前で心を一つに、お茶の会が始まります。北海道より沖繩から、ご生涯かけて愛し、お仕えてこられた教会のことを伺っていますと、不思議に繋がりが見いだされ神様の御業の深さ、確かさに驚かされます。訪問する者たちも、今ここで神様に会わせていただいているような豊かな思いにさされます。

2003年、元主事であられた飯野元次さん（阿佐ヶ谷教会）の呼びかけで始められて以来、栗谷さん（目白町教会）のケーキ、津崎さん（下谷教会）の和菓子手作りを用意され、和やかな家庭的な場となりました。当初から参加した水野さん（阿



11月4日 参加の奉仕者

後段右端が筆者

佐ヶ谷教会）の、アイディア溢れるプログラムは、集う人々を包み込む暖かな時となりました。和菓子が供されるならお抹茶で

と、弓削さん（阿佐ヶ谷教会）がたててくださる一服は心も体もリフレッシュします。いつも歌の伴奏をしてくださる犬塚さん（目白町教会）はどんな曲でも初見で弾いてくださいます。漢字クイズで頭を柔らかくしてくださる岩戸さん（小平学園教会）、手品で人をからかう谷さん（馬橋教会）、青梅在住で地元の情報伝えてくださる鈴木さん（東美教会紹介）、チャリティコ

ンサートなど運営面でご奉仕の池田さん（霊南坂教会・元主事）、佐々木さん（清瀬旭ヶ丘教会）、アコーディオンで心にしみる歌の数々をリードしてくださった和久井さん（青梅教会）、それぞれの賜物を生かし楽しい交わりが生み出されます。荘で祈りをもつてご奉仕されておられる方々のことも忘れられませんが、お出ましの時には必ずご挨拶くださる笑顔の深山荘長、責任重く忙しい中を、時間をつくってお顔を見せてくださる松村施設長、キリストにある愛をもつて、先生方を親身に支えておられる三浦さんはじめスタッフの方々、誰一人、神様と先生方のためにと思いを尽くさぬ方はおられません。

「にじのいえ信愛荘」は教団立の隠退教職ホームとして運営されていますが、青梅市と連携をとりつつ医療施設確保、介護保険サービス活用にも適切な配慮がなされ、職員の方々の祈りと知恵と忍耐強いご努力に支えられています。

先生方の上に健康と主のご慈愛と平安が豊かにありますように心よりお祈りします。

（西東京・国立教会員）



2019年10月29日
にじのいえ信愛荘 入荘の皆様

老いと祝福

にじのいえ信愛荘から

パート職員・看護師

金井 弓子



6月に開催された婦人会連合50周年全国集会

の分科会「老いと祝福」で発題する機会を与えていただきました。与えられた環境の中で、いかに生きるか、どのように感謝の生活を続けていけるのかということを考えました。老いの坂を登って行く私たちは、耐えがたい場面にも遭遇しますが、それすらも感謝に考える知恵も与えられています。

百歳時代と言われている現在、周囲に次々と老人ホームが建てられていきます。それらの集団生活の場は「荘」とは何が違うのかと問われれば、当然のことながら、朝毎に祈りで始まる共同体であることです。

多くの祈りに支えられていることを感謝し、同時に他者の痛みと共に感じ祈り続ける共同体であると感じます。

石丸昌彦医師は講演の中で、

老年期は人生の統合の時である
と、「にもかかわらず」の言葉を
用いて語られました。にもか
わらず「祝福」。祈り、感謝の
生活ができることは祝福だと考
えます。祈ることのできる私た
ちは、未来を生き生きと描く祈
りの生活を目標にしていきたい
と思います。

荘の春は軒先に燕が巣作りし
雛を育てます。天敵は鴉。狸や
白鼻心等も住んでいるようです。
夏には近くの川から上ってきた
沢蟹が鉢を振り上げ、何匹も車
にひかれていきます。沢蟹の素揚
げは美味しいとのこと。自然豊
かなところですよ。

*多摩川を裾模様にして山笑ふ
土を耕し肥料を与え、種を蒔
き観察し、花や実を楽しみ枯葉
を肥料に帰し、と人の一生にも
似た魅力的な園芸作業を好む
方々は活き活きと楽しまれてい
ます。

*小暑哉除草收穫施肥剪定
話を戻し、分科会では健康寿
命（日常的継続的な医療、介護
に依存せず、自分の心身で生命
維持し、自立した生活ができる
生存期間）と平均寿命（健康の

有無にかかわらない寿命の長さ）
の差が最小限になるよう、自身
の体を管理し、キリスト者とし
ての歩みを続けていきたいと発
題を結びました。

*「信徒の友」―俳句欄掲載 筆者作

（西東京・東久留米教会員）

「にじのいえ信愛荘」との

ご縁



パート職員・

看護師

高木 睦子

以前、私が訪問看護師をして
いた時に深山祐牧師とお知り合
いになりました。その後、荘長

としての深山先生に「にじのい
え信愛荘」を紹介していただき
ました。ご一緒に初めてこちら
に伺った時、荘の少し手前の道
の端で立ちどまれ「天の神様、
この姉妹に良き導きと恵みを与
えたまえ」との祈りには思いが
けないことで驚きましたが、感
謝もありました。

という経由でこちらに来るよ
うになり、そろそろ4年になり
ます。

「にじのいえ信愛荘」に住んで
おられる皆様と、職員の方がた
には、常に優しくしていただき
助けていただいています。

荘の建物は3棟あり、廊下で
つながっています。南側は低い
山々が荘を守るように連なり、
北側は民家、東側、西側も民家
と樹木がばらばら並んだり少
ずれたりして荘をかこんでいま
す。密集しているわけでも、寂
しい程はなれていてるわけでも
なく、ほどほど丁度良い感じです。
荘の敷地内には、花壇がいくつ
もあり、四季の花々―春はハナ
ミズキ、秋は金木犀などが目を
楽しませてくれます。

正直なところ、役に立ってい
るのか未だに分かりません。が、
たった4年に満たないにもかか
わらず、確実に時は流れていき
ます。

高齢化が進む日本社会同様、
ここにも行く手に同じ課題が現
れつつあるように思うこの頃で
す。（東京東・富士見町教会員）



■スタッフ・自己紹介



内藤 美枝

「わたしたちの一つの体は多くの部分から成

り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、わたしたちも数が多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです」(ロマ書12・4-5)

思いがけなくこのたび「にじのいえ信愛荘」のお仲間に入れていただきました。未熟な私が毎日み言葉を感じることができるよう「主が備えてくださったホーム」のスタッフに、と神様を取り計らってくださったのでしょうか。「にじのいえ信愛荘」というキリストにあつて一つの体の「部分」として用いていただけるのは大きな喜びです。荘にはいろいろな仕事があります。私にはどのような賜物が神様からいただいているのかわかりませんが、感謝をもって日々の仕事に携わっていききたいと思えます。

(東京西南・霊南坂教会員)



元パート職員
岩戸 五郎

「にじのいえ信愛荘」に新し

い職員が与えられた。5年もの間婦人会連合や、週1日ずつ数人のメンバーによるシフトによって、昼間と夜間、それぞれ3人以上の配置をキープしてきたが、その体制を終了した。私には本来のボランティアとして関わる状態に戻ったわけである。

でも20数年の関わりは、いわば勝手に勝手に作業する。そのマイペースは5年間の「勤務」の時も同じだった。

自分のやってきたことを記録して、何とか後の方に役立てるようにと荘全体の各所の課題や、点検方法、緊急時の対処方法など絵を加えながら「雑作業ノート」としてまとめた。このノートもマイペースで「雑に」作ったので、読んでもよく解らん！との声も。

私の信条は「いくつになっても好奇心」である。課題に対して、何が問題か、どうなっ

たのか、どうあるべきか、から考えてみる。これは私に与えられた賜物(ロマ書12章)と信じ感謝している。関わるそれぞれの場でこの賜物を活かす生涯でありたい。勿論限界はある。

全国の教会からの貴重な献金に支えられている財政面でのほんの少しでも役立てばと、材料を買ってきて修理し、工夫により安く整備することもやってきた。お金を出せば済むことではないと思いつけた。

今も月1回とは思いつながら関わらせていただいている。違うのは、本来車があつて、その車を利用して行き始めたが、4月からは車をやめた。幸い娘の都合と合えば、送り迎えしてくれる。でもそんなに都合よい訳ではない。

今後どれだけ協力できるかわからないし、何より超高齢者である。繰り返しですがお金で済ませば簡単。心配することではないのだが、やっぱり気になる。

精一杯できることをやつたら、後はただ祈るだけの(これも大切)支援の一人に加えていただく。

(西東京・小平学園教会員)

維持献金・クリスマス献金 のお願い

「にじのいえ信愛荘」のため、いつも皆様のご理解とご支援をいただきまして感謝です。

今後も継続的に維持管理していくために、皆様からの維持献金とクリスマス献金のご協力をよりしくお願いいたします。

○献金額など不審点がありましたら、事務局までご連絡ください。

○事務局には振替用紙と専用の献金袋(個人)を用意していますので、ご利用の上、教会でまとめてご送金ください。

○献金者の中で、ご召天、転居、転会、中止の場合には、ご面倒でも、ご連絡(メールも可)いただけると助かります。

振替口座番号

001200-3-358467

加入者 にじのいえ信愛荘

TEL 0428 (22) 2283

FAX 0428 (22) 2317

Eメール

nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

莊日記



施設長 松村 誠一

●2019年5月

- 8日(水)スタッフ会
- 13日(月)青梅幼稚園花の日(3名)
- 14日(火)監査5名
- 15日(水)東村山教会来訪(11名)
- 16日(木)運営委員会
- 20日(月)住込み職員内藤美枝姉勤務
- 22日(水)井上医院健診
- 27日(月)誕生会・相談会
- 28日(火)火災報知器点検
- 29日(水)奥多摩散策

●2019年6月

- 3日(月)お茶会(10名)
- 7日(金)めぐみ幼稚園関係者来訪
- 9日(日)ペンテコステ礼拝(今年から聖餐式を行うこととしました。世界聖餐日にも)
- 11日(火)相愛教会来訪(6名)

地下タンク検査

- 13日(木)スタッフ会
- 14日(金)菖蒲を見る会(8名)
- 16日(日)河辺伝道所との合同礼拝(23名)
- 19日(水)井上医院健診
- 24日(月)誕生会・相談会
- 26日(水)礼拝堂の音響設備工事
- 28日(金)南三鷹教会来訪(14名)

●2019年7月

- 1日(月)お茶会(10名)
- 11日(木)スタッフ会(委員長出席)
- 16日(火)食堂ワックスがけ
- 17日(水)井上医院健診
- 18日(木)消防検査
- 21日(日)霊南坂教会オリープ会来訪(12名)
- 25日(木)柳沼政一師退院
- 26日(金)東京山手教会来訪(22名)
- 29日(月)誕生会・相談会
- 30日(火)ナースコール点検

●2019年8月

- 1日(木)安間兄フルート演奏会(4名)
- 2日(金)クリスマス委員会
- 6日(火)風呂レジオネラ菌検査
- 8日(木)スタッフ会
- 21日(水)井上医院健診
- 26日(月)誕生会・相談会
- 30日(金)コピー機入れ替え

●2019年9月

- 2日(月)お茶会(12名)
- 11日(水)給食会議
- 12日(木)スタッフ会
- 13日(金)めぐみ幼稚園来訪(3名)
- 16日(月)礼拝委員会
- 17日(火)第2回口腔ケア講習
- 18日(水)井上医院健診
- 東大和教会来訪(3名)

19日(木)須藤委員長による第2回終活説明会

21日(土)河辺伝道所とのカレーパーティー(15名)

29日(日)秋季墓前礼拝(6名)

30日(月)誕生会・相談会

●2019年10月

- 7日(月)お茶会(7名)
- 10日(木)スタッフ会
- 11日(金)全国婦人会連合会来訪(29名)
- 14日(月)井草教会来訪(8名)
- 15日(火)高円寺教会来訪(5名)
- 16日(水)井上医院健診
- 19日(土)嶺 尚師(元荘員)召天
- 22日(火)日下部教会来訪(18名)
- 26日(土)A棟ボイラー点検
- 28日(月)誕生会・相談会
- 30日(水)図書室整理開始

全国の教会、伝道所、信徒の皆様のお祈りとお支えにより、現在22名の牧師とご夫人が、生活しておいでです。心から御礼を申し上げます。今年は特に台風や大雨の影響で多くの方が、大変なご苦労をなさっていらっしゃると思います。心身のお疲れに對しまして、主の癒しと一日も早い再出発をお祈りいたします。

今年入荘された長山恒夫師、篠原愛義師、春原鈴子師も礼拝説教の奉仕をしていただくこととなり、感謝です。

あとがき

第20号を全国の教会、読者の皆様にお届けします。ご執筆くださいました皆様には、お忙しい中をご協力いただきまして心よりお礼申し上げます。

「にじのいえ信愛荘」として合併後の創刊号が2010年7月発行ですので、次号で10年。月日の経つ速さに驚かされます。

実に22年もの長い間、荘内の修理修繕などを通して、荘の生活に支障をきたさぬよう心をくだいてくださる岩戸五郎氏に深く感謝申し上げます。

アドベントを迎えました。この嬉しい出来事を初めて知る方々と分かちあえることができますよう、切に祈ります。

長く荘におられ、昨年6月に退荘された嶺 尚師が天に召されました。澄子夫人の上に神様の深い慰めを祈ります。

編集委員会

- 長・成松三千子 黒沢咲子
- 石井泰子 阪口和美
- 岸 俊彦師 鈴木功男
- 印刷 シャローム印刷

訂正 おわび

前号第19号に、左記の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

5頁 春原鈴子牧師の自己紹介11行目 誤 大和東伝道 正 東大和伝道